

講義名	サービス・マーケティングリサーチ				
担当教員	栗田 真樹				
開講期・曜日・時限	後期集中 その他 その他		授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
マーケティングリサーチで用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを学習する。本授業では、各手法を統計ソフトを用いて実践し、手順と結果の解釈までを学ぶ。多変量解析の手法としては、重回帰分析、主成分分析、因子分析、判別分析、クラスター分析、数量化理論などをとりあげる。					
到達目標					
・統計解析ソフトを使って統計解析を行うときの基礎を身につけることができる。 ・サービス・マーケティングリサーチとは何かを理解できる。 ・統計学的知識を実践的に活用することができる。					
提出課題					
授業中に毎回課題を課します。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
授業中に講評・解説します。					
評価の基準					
平常点80%、確認試験20%					
履修にあたっての注意・助言他					
アルゴリズムには深入りしませんが、数学的な知識は必要とします。 「基礎統計学」「社会統計学」を履修済みであることが望ましく、これらの科目の知識が必要となります。 「面接授業（対面授業）」で行う予定です。新型コロナウイルス感染予防対策を十分行い、受講してください。 また、出席は単位修得の前提ですが、出席だけで単位修得を確約するものではありません。 集中科目ですので、一日分を欠席されると、単位修得は困難になりますので注意してください。					

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
プリントを配布する。 参考文献：『ウルトラ・ビギナーのためのSPSSによる統計解析入門』小田利勝、ブレアデス出版 その他については、適宜指示する。				
授業計画				
1. サービスマーケティング・リサーチとは 2. 線形モデル(1)：分散分析の基礎 3. 線形モデル(2)：分散分析の実際 4. 顧客意識の説明(1)：重回帰分析の基礎 5. 顧客意識の説明(2)：重回帰分析の方法 6. 顧客意識の説明(3)：重回帰分析の実際 7. 顧客の位置づけ(1)：主成分分析・因子分析の基礎 8. 顧客の位置づけ(2)：主成分分析・因子分析の方法 9. 顧客の位置づけ(3)：主成分分析・因子分析の実際 10. 顧客の層化(1)：判別分析 11. 顧客の層化(2)：クラスター分析 12. 小標本の変量解析(1)：数量化理論 13. 小標本の変量解析(2)：カテゴリカル主成分分析 14. 理論モデルの検証：パス解析 15. まとめ				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間（28時間×15回）、予習・復習で60時間（4時間×15回）です。 予習・復習、中間レポート試験、定期試験の準備等、授業時間外で60時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。 具体的には、授業前に自らの授業内容について教科書の該当部分を読み、要点をまとめておいてください（2時間）、授業後に自らの授業内容を復習し、再度要点をまとめ、疑問点があれば質問できるように記録しておいてください（28時間）。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
・社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。 ・統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それらを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。 以上の学部のディプロマポリシーを達成するためのサービス・マーケティングに関する専門知識を提供し、実践的に活用できる能力を修得します。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
データ解析ソフト「SPSS」を使用する対面授業（面接授業）・実習形式の授業予定です。				
実務経験の有無及び活用				
実務経験あり。企業、自治体等における各種社会調査の実務経験を活かして授業を行います。また担当者は「専門社会調査士」の資格を持っています。				
備考				
対面授業の予定ですので、講義中の私語、不必要な携帯電話、メール等は厳禁とします。「講義妨害」にあたるような場合には、他の履修者の権利を守るため退室してもらうことがありますので注意してください。				